

## 令和6年度 アクションプラン1

重点項目	望ましい人間関係の育成		
重点課題	その場に合った挨拶ができる		
現 状	<p>昨年度は「よりよい挨拶ができる」ことを目指して「あいさつレベル」を作成し、「あいさつ運動」や「あいさつボランティア」に取り組んだ。その結果、自分の挨拶を振り返ることで、目標には届かなかったが、全体的に年間を通して「あいさつレベル」を上げることができた。一方で、自分の「あいさつレベル」を把握できていなかったり、朝の挨拶以外はできていなかったりする児童が多かった。</p> <p>挨拶は、よりよい人間関係を築くうえで大切なコミュニケーションスキルである。朝の挨拶だけではなく、場面に応じた挨拶をすることによって、人間関係もよりよく、広がっていくと考える。また、早寝早起き等の健康的な生活がよりよい挨拶につながっていることから、今年度も保健指導と連携し、生活習慣の改善を図っていきながら、時と場合、相手に応じた適切な挨拶ができるようにしていきたい。</p>		
達成目標	自分のあいさつレベルが4以上であると自己評価する児童が65%以上		
方 策		評 価	
		中間	年度末
①	児童の実態に応じた「あいさつレベル」を設定し、児童が目当てをもって挨拶ができるようにする。また、定期的に振り返る場を設けることで、その場に合った挨拶を意識することができるようにする。	C	
②	朝から元気な行動ができるように、健康パワーアップ作戦と関連させて、早寝の習慣化を目指していく。	B	
総合評価			

<評価基準> A…達成した B…ほぼ達成した C…あまり達成できなかった D…達成できなかった

取 組 状 況
<p>1 達成目標の実態</p> <p>「自分(お子さん)の『あいさつレベル』はいくつですか」のアンケート結果は、レベル4以上であると答えた割合が、子供が56%、保護者は53%だった。『『あいさつレベル』を上げよう意識しましたか』のアンケート結果から、「できた」と答えた子供の割合は90%、「できなかった」と答えた割合は10%だった。「お子さんは、家や地域で挨拶していますか」のアンケート結果から、「できた」と答えた保護者の割合は、82%、「できなかった」と答えた割合は、18%だった。</p> <p>「朝から元気に活動するために、早く寝よう意識して早寝することができましたか」の結果は、「できた」と答えた児童は82%で、保護者は76%であった。「できなかった」と答えた児童は18%で、保護者は24%であった。</p> <p>2 方策について</p> <p>①については、あいさつレベル表を玄関や各教室に掲示し、自分の「あいさつレベル」を自覚できるように働きかけた。また、生活委員会が月に一度「あいさつ運動」を行い、よりよい挨拶の定着を図った。そして、「あいさつレベル」4以上の人を問うアンケートを実施し、挨拶が上手な人を全校に紹介することで挨拶への意識を高めた。</p> <p>②については、「健康パワーアップカード」を継続した。これにより各家庭で子どもと一緒に早寝をするための工夫を考えたり、子どもの生活の様子を踏まえてアドバイスしたりする記述が増えている。</p> <p>3 今後の課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あいさつレベル」が4以上だと自己評価する児童は全体で56%と、目標に達することができなかった。しかし、「あいさつレベル」を意識することができた児童は90%いた。そこで、隔週で自分の「あいさつレベル」を振り返り、よりよい挨拶をするためにどうしたらよいかを考えたり、月末にあいさつ名人の推薦を行ったりすることで、意識を継続し、改善に向かえるようにしたい。また、学級活動や道徳等の時間において、自分の挨拶の仕方を振り返ったり、「なぜ挨拶をするのか」等について互いに意見を出し合ったりして、挨拶をすることの大切さを考えさせたい。このことにより、学級の友達や先生、さらには自分のことを大切に、よりよい人間関係を築くことができるようにしたい。</li> <li>・早寝と朝から元気に活動することをつなげて意識できるように、「健康パワーアップカード」を配付する際に、早寝と挨拶を関連付けた声かけをする。</li> </ul>